

ものから、「汗水節」(1929)、「安里屋ユンタ」(1934)のように民謡調があり、作曲手法は幅広く豊かである。

「安里屋ユンタ」も同様だが、人々に親しまれ愛唱されている曲であり、琉球民謡と誤解されるほど民謡と同化し、作曲者が宮良長包であることは知られていない一面もある。(註17)

【楽譜 1】「汗水節」

【楽譜 1】

汗水節

仲本 稔 作詞
宮良 長包 作曲

三線

1.	あ	し	み
2.	い	ち	に
3.	あ	さ	ゆ
4.	く	く	る
5.	ゆ	ゆ	る
6.	う	ま	ん

【歌詞】 汗水節 (あしみじぶし) 大山伸子編・校訂『宮良長包作曲全集』琉球新報社、2003、p.80

1. 汗水^{あしみじ}ゆ流^{はたら}ち 働^{ひと}ちゆる人^{くるうり}ぬ 心^し嬉^ししさや ゆ^しゆぬ知^しゆみ (ゆ^しゆぬ知^しゆみ)
 ユイヤサッサ ゆ^しゆぬ知^しゆみ
2. 一日^{ぐんじゅう}に五十 百日^{ぐぐわん}に五^{まむ}貫^{すく} 守^{んかし}てい損^{んかし}にるな 昔^{んかし}言^{んかし}葉^{んかし} (く^{んかし}とう^{んかし}ば) (昔^{んかし}言^{んかし}葉^{んかし})
 ユイヤサッサ 昔^{んかし}言^{んかし}葉^{んかし}
3. 朝^{あさ}夕^ゆ働^{はたら}ちゆてい 積^ちん立^{じん}ている^{じん}銭^{わかまち}や 若^む松^むぬ茂^{とウし}てい 年^{とウむ}とう共^{とウむ}に (年^{とウむ}とう共^{とウむ}に)
 ユイヤサッサ 年^{とウむ}とう共^{とウむ}に
4. 心^{くる}若^{くる}々^{くる}とう 朝^{あさ}夕^ゆ働^{はたら}きば 五^{くるくじゅう}六^{くるくじゅう}十^{くるくじゅう}になていん 二十^{はたち}さらみ (二十^{はたち}さらみ)
 ユイヤサッサ 二十^{はたち}さらみ
5. 老^ゆゆる年^{とウし}忘^{とウし}てい 育^{すだ}ていたる^{すだ}生^{なし}し子^{ぐわ} 手^{てい}墨^い学^い問^いむ 汎^{ひる}く知^{ひる}らし (汎^{ひる}く知^{ひる}らし)
 ユイヤサッサ 汎^{ひる}く知^{ひる}らし
6. 公^{うまん}衆^{ゆう}ぬ為^{たみ}ん 我^{わん}為^{たみ}ゆとう思^むてい 百^{むむいさ}勇^{いさ}み勇^{いさ}でい 尽^{ちく}しみしより (尽^{ちく}しみしより)
 ユイヤサッサ 尽^{ちく}しみしより

【歌詞訳】

1. 汗水流し働く人の その心の嬉しさは 他所(働かない者の意)は知ることがないだろう
 ユイヤサッサ (囃子) 他所(働かない者の意)は知ることがない
2. 一日一厘(たとえ少なくともの意) 百日に十銭 貯えて損ねるな それが昔からの
 言葉(教訓)だよ
 ユイヤサッサ (囃子) それが昔からの言葉(教訓)だよ
3. 朝から晩まで働いて 積み立てていくお金は あたかも若松の茂みが年を重ねていく
 と共に盛るようだ
 ユイヤサッサ (囃子) 年を重ねていくと共に盛るようだ
4. 心を若くして朝から晩まで働けば 五十歳六十歳になっても二十歳のようだ
 ユイヤサッサ (囃子) 二十歳のようだ
5. 老いる年を忘れて育ててきたわが子よ 学問に勤め広く世に知らしめよ(貢献せよの
 意)
 ユイヤサッサ (囃子) 学問に勤め広く世に知らしめよ(貢献せよの意)
6. すべての人のためも 自分のためと思って 勇気を奮って力を尽くしてください
 ユイヤサッサ (囃子) 力を尽くしてください (註18)

VI. まとめ

アンケートのデータやフィールドワークを通して、幼稚園、小学校における「宮良長包音楽」の実践的課題を捉え、解決の方策を検証し、さらに、幼小連携の可能性を探ってみよう。

【図8】「宮良長包音楽」の実践的課題と解決の方策及び幼小連携の可能性

